

BALL TEST DATA

【セールス資料】

BALL NAME : “ TOUR DYNAM-X ”

COLOR : DARK CYAN/ONYX

COVER STOCK : TOUR TRAX™ SOLID REACTIVE

RG : 2.47 (MID) Δ RG : 0.026(Low)

FACTORYFINISH : 2000Grit ABRALON

TRACKFLAREPOTENTIAL : 4

BACK END : 17 (1-20) MAX **LENGTH** : 16 (1-20)

O	LONG			
I	MEDIUM			
L	SHORT			
		Light	Medium	Heavy

適正レーンコンディショニンググラフ

【MEDIUM OIL 編】

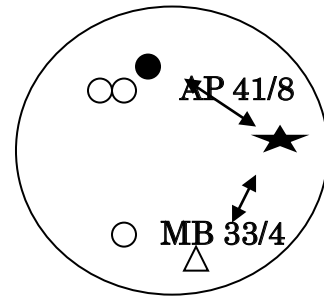
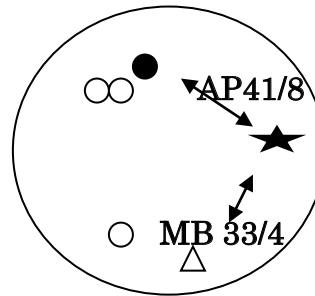


2023年5月30日

レイアウト例

TOUR DYNAM-X

RUBICON BOOSTER

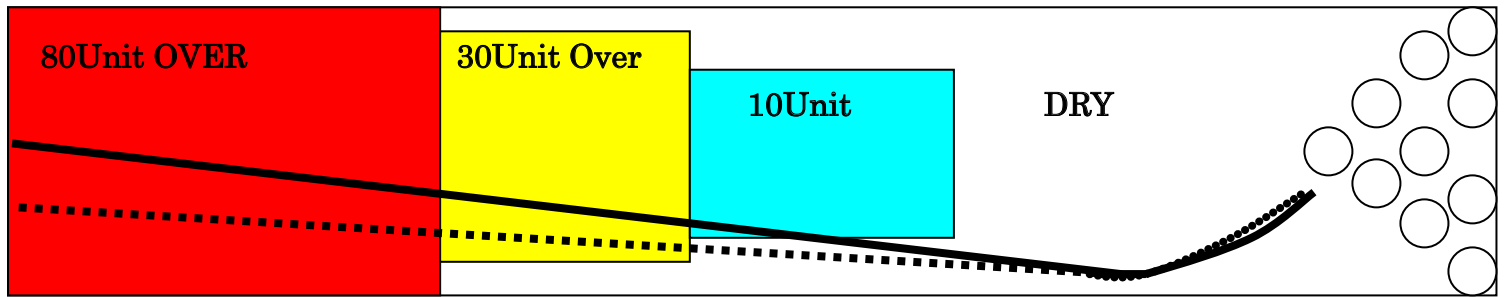


CA55度

CA52度

フラー幅 最大 63/4 ・ 間隔 1/8

最大 6 3/4 ・ 間隔 1/8



0F

15F

40F

比較品ライン

TOUR DYNAM-X

RUBICON BOOSTER

【レーン状況】 ベースメンテナンスはアンボイ、7：1で外と中のオイル量に差があり全体的なオイル量 26ml ですので通常センターで多く使われているメンテナンスの形であると思います

【製品比較表】

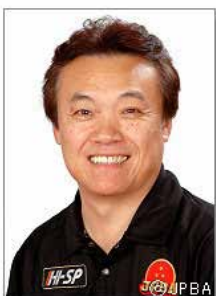
曲がり度	1	2	3	4	5	曲がり方	アーク	1	2	3	4	5	シャープ
スキッド	1	2	3	4	5	オイルの強さ	1	2	3	4	5		
ピンアクション	1	2	3	4	5	テスト品	○	比較品	△				

*上記の数字は、1側が少ない(短い・弱い) 5側が強い(大きい・長い)

【ボール総合評価】

STORM 工場の新たな挑戦の一環としてコア比重の変化をさせ従来コアに一工夫をする技術が他工場と違い近代化してます。今回もルビコンで使用されたコアですがなんと！ Δ RG 数値 0.026 が最大武器でレーン手前から転がり維持をしながら直線するというのに対してバックエンドでも強い曲がりが見られる、更に安定してるという3大要素をカバーしています

【新：章夫の直感】



この製品は本当に工場進化を感じさせますね、カバーストック自体はオイルに左右されづらい強いカバーなのですが不思議とレーン手前が噛み過ぎる事が無いんです。更にボール慣性数値だけで判断すると今までの常識だとバックエンドにおいてパワーロスし易いのですがブレークポイントからの一定で大きな曲がりが見られるので高慣性並に動くんです。その曲がりもフレアこそ大きくは出ないのですが、均一性があるのでアジャストはし易いです。これほどまでに変化する技術は本当に脱帽ですね。ピンアクションも柔らかく飛びます。革命的な要素の匂いがするボールですね

発売日：2023年9月予定

テストセンター：アイ・ボール向島 テスター石原 章夫プロ

